

(写真・文 吉岡義雄)

ミミズクの幼虫

(学名 : *Ledra auditura*)

【カメムシ目ヨコバイ科】



▲ 背中側から見た幼虫。非常に平べったい上に前肢と中肢を体の下に隠してしまうため、一目見ただけでは昆虫かもわかりにくい



▲ 裏返して腹面から見た幼虫。3対の肢がよく見える。発達した後肢は、飛び跳ねて天敵から逃げるために役立つ

何かに押しつぶされたかのような平たい姿にごつごつとした体表面。こう見えて稲の害虫として有名なヨコバイに近い仲間です。森林に生息し、樹木の幹や枝に張り付いて生活していることが多いです。写真の通り、扁平な体と樹皮に紛れる体色をしているため、野外ではなかなか見つけることはできません。運よく見つけることができても、跳ねて遠くに逃げてしまうため、捕まえるのは簡単ではありません。

冬は樹皮の隙間や落ち葉の下でじっとしています。雪深い只見では、冬の間は落ち葉ごと雪に埋まってしまうのですが、雪の下は一定の温度と湿度が保たれるため、凍結や乾燥の心配がなく、むしろ比較的安全に越冬できるのです。

ちなみにミミズクの成虫は、背面に耳状の突起があり、これがフクロウの仲間のミミズクの頭部の羽角うかくに似ているのが名前の由来です。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展アーカイブ・プラス「只見の自然を食べる！」

会期：2023年12月2日(土)～2024年4月21日(日)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています